

婦米ハ交渉ノ破裂ヲ意味セスト述ヘタル由ノ華府電報等ヲ掲載セルル処一部新聞ハ本件延期カ恰モ日本側ノ責任ナルカノ如キ印象ヲ与フル報道振リヲ為シヨリ殊ニ「ヘラルド」ハ第一面ニ Japan Torpedoes Naval Conference ナル大見出しノ下ニ日本ハ均等要求ノ準備ノ為交渉ヲ延期セシメタリ昨日ノ海軍主脳會議ニヨリ裏書セラレタル右日本ノ態度ハ来年ノ本會議ヲ無用ナラシムヘシト報シタリ

(三) 交渉中止ニ至リシ他ノ原因

交渉中止ノ一因カ日本ノ実質問題討議参加カ十月ニ至ラサレハ不可能ナルコトニ存スルコトハ前記ノ通ナルモ結局英国ノ小艦多数主義ト米國ノ大艦少数主義ニ関スル從來ノ主張ノ相違カ再ヒ繰返サルルニ至リ話合カ全ク行詰リタルコトカ他ノ重要ナル一因ニシテ日本カ実質問題ノ討議ニ参加スルコトナラハ或ハ英米間ノ差異ヲ接近セシムルヲ得テ何等カノ解決方法ヲ見出し得ルヤノ望ヲ有シ從テ会谈ヲ今秋迄延期セシメタルモノカト察セララルル節アリ又英米間ノミニ実質問題ノ討議進捗スル時ハ恰モ英米間ニ先ツ海軍問題ニ関スル協定ヲ遂ケ以テ日本ニ当ラントスルカ如キ印象ヲ与ヘ面カラサルヲ以テ日本カ実質問題討議ノ為専門家ヲ派遣シ得ル時期迄話合ヲ延期セントシタルモノナルコトモ他ノ一因ナルコトハ「クレイギー」及「デーヴィス」カ屢々松平大使ニ語リタル処ニ依リ推察シ得ラルル処ナリ

(四) 米國代表帰國

斯クテ米國代表「デーヴィス」ハ七月十九日専門家一行ト共ニ婦米ノ途ニ就キ茲ニ予備交渉ハ十月迄中絶セララルコトトナレリ

第四節 英伊交渉

伊國政府ハ英國側ノ招請ニ応シ「ビシア」大佐ヲ七月二十九日倫敦ニ派遣シ三十日、三十一日ノ兩日ニ亘リ英國側ト話合ヲ為サシメタルカ右話合ハ主トシテ今迄ノ交渉振リヲ確カメタルニ過キス真ノ交渉ハ秋迄繰延ヘラレタリ

第二章 再開後ノ予備交渉經過(英國ノ示唆案提示迄)

第一節 予備交渉(実質問題)ニ対スル帝國政府ノ方針決定

(一) 山本少將帝國代表ニ追加

斯クテ帝國政府ニ於テハ十月頃ヨリ軍縮ノ実質問題ニ関シテモ交渉ヲ進ムルコトトナリタルヲ以テ山本五十六少將ヲ帝國代表ニ追加スルコトニ決シ内奏ヲ經タル上九月七日附ヲ以テ同少將ヲ帝國代表ニ追加セリ

(二) 閣議決定

軍縮ノ実質問題ニ関スル帝國ノ方針ニ付テハ關係当局ニ於テ慎重協議シタル結果成案ヲ得九月七日ノ閣議ニ於テ左記(三)ノ根本方針ヲ決定シ直ニ松平大使宛電報シ且別ニ松平・山本兩代表ニ対シ後頭(四)ノ訓令ヲ与ヘタリ

(三)根本方針

- 一、來ル十月頃ヨリ再開セラルヘキ昭和十年海軍軍縮會議予備交渉ニ於テ帝國政府ハ帝國主張ノ貫徹ヲ図ルト共ニ帝國国防ノ安固ヲ期シ得ル範圍ニ於テ同會議ノ目的達成ヲ容易ナラシメントヲ期スルモノナリ
- 二、帝國政府ハ海軍軍備制限ニ関シテハ帝國国防ノ安固ヲ期シ得ル範圍ニ於テ左記要旨ニ依リ兵力ニ関スル協定ヲ行フヲ根本義トス

要 旨

- (一) 各国ノ保有シ得ヘキ兵力量ノ共通最大限ヲ協定スルコト
- (二) 右協定ニ当リテハ
 - (イ) 軍縮ノ精神ヲ發揮スル為右限度ヲ小ナラシムルコト
 - (ロ) 攻撃的兵力ハ之ヲ極力縮減シ防禦的兵力ハ之ヲ整備シ以テ各国ヲシテ攻ムルニ難ク守ルニ不安ナカラシムルコト
- (三) 大正十一年華府ニ於テ調印セラレタル海軍軍備制限ニ関スル條約ハ帝國国防上之カ存続ヲ不利トシ且海軍軍備制限ニ関スル帝國ノ根本方針ニ鑑ミ本年末日迄ニ之カ廃止通告ヲ為スコトトス尤モ帝國ハ出來得ル限り友好的且効果的ニ今次予備交渉ヲ行ハント欲スルモノナルカ故ニ予備交渉再開後關係國ノ合意ニ依リ之カ廃止通告ノ手續ヲ為シ次テ各国協力シテ新協定ノ成立ニ努ムルノ形式ヲ採ルコトノ適當ナル旨ヲ關係國側ニ説示シ右局面ニ導カントス但シ右交渉ノ結果關係國カ前記我方意向ヲ承諾セサル場合若ハ

其ノ諾否ノ態度ヲ明ニセサル場合ニ於テハ帝國政府ハ独自ノ見解ニヨリ本年未迄ニ本件廃止通告ヲ為スモノトス

(四)松平・山本兩代表ニ対スル訓令

- 一、帝國ガ本年五月英國政府申入ニ係ル海軍軍縮予備交渉ノ開始ニ同意セル所以ノモノハ今次海軍軍縮ガ重大事項ニシテ且迂余曲折ノ予想セラルルニ鑑ミ右交渉ニ依リ關係國民ノ輿論ヲ無用ニ刺戟激化セシムルヲ避クルト同時ニ關係國代表ト充分ナル意見ノ交換ヲ行ヒ各關係國ノ立場及主張ヲ明ナラシメ以テ帝國主張ノ貫徹ヲ図ルト共ニ帝國国防ノ安固ヲ期シ得ル範圍ニ於テ同會議ノ目的達成ヲ容易ナラシメントスルニ在リ

- 二、今次予備交渉ノ複雑ヲ極ムベキニ鑑ミ帝國政府ハ閣下ノ御努力ニ期待スル処大ナルモノアル処右折衝ニ當リテハ後掲根本方針其ノ他本訓令ノ趣旨ヲ体セラレ又海軍専門事項ニ関シテハ首席海軍専門委員ノ意見ヲ徴セラレ度シ
- 尚交渉ノ機微ナルベキニ鑑ミ其ノ折衝振ニ関シテハ閣下ノ裁量ニ依リ訓令ノ範圍内ニ於テ迅速且適切ナル措置ヲ採リ交渉ニ善処セラルベシ

- 三、手續上ノ問題ニ関シテハ既ニ主要關係國ト一応意見ノ交換アリタル処本年十月頃ヨリ再開セラルベキ予備交渉ニ於テハ未解決ノ事項ニ付テモ我方主張ヲ貫徹スルニ努メラレ度シ

- 四、英國政府ニ於テ所謂海軍軍縮ノ實質問題ノ討議方ヲ再三我方ニ希望シ來レルモ米國政府ニ関シテハ必ず

シモ然ラズシテ從來米國当路者ノ在米帝國大使ニ説明セル所ト倫敦ニ於テ米國代表者ノ我方ニ述ベタル所トノ間ニハ相当懸隔アリト認メラルルニ付閣下ハ予備交渉再開ノ劈頭ニ於テ米國政府ニ於テモ實質問題ニ付充分ナル論議ヲ行フノ意アルコトヲ明確ニセラレ以テ交渉方法ニ遺漏ナキヲ期セラレタシ尤モ帝國政府トシテハ米國側ニ於テ万一實質問題ニ付論議ヲ行フノ準備ナキ場合ニ於テモ英國側ト適宜右交渉ヲ行フコト差支ナキモ英國が専ラ交渉ヲ指導シ從テ我立場ヲ不利ナラシムルガ如キコトナキ様留意スルヲ要ス

五、今次海軍縮予備交渉ニ於テ帝國政府ハ第六号所載根本方針ニ則リ兵力ニ関スル公正妥当ニシテ帝國国防ノ安固ヲ期スルニ足ル新協定ヲ遂グルノ素地ヲ作り將來成ルベク國民負担ノ緩和ヲ図リ且各國間ノ平和親交ヲ増進センコトヲ期スルモノナリ而シテ既存海軍備制限條約實施期間満了後我方ニノミ不利ナル拘束ヲ持続シ又ハ帝國国防ヲ不安ナラシムルガ如キ協定ヲ締結スルガ如キコトハ帝國ノ到底容認シ能ハザル所ナルヲ了シ置カレ度シ

六、海軍備制限ニ関スル左記帝國政府ノ根本方針ハ我方ノ極メテ重要視スル所ナルヲ以テ先以テ我が根本方針ヲ提示シ關係國特ニ英米ヲシテ之ヲ承認セシムルニ全力ヲ尽サレタシ
帝國政府ノ根本方針左ノ如シ

帝國ハ國家安全ノ為必要トスル限度ノ軍備ヲ有スルノ權利ハ各國齊シク之ヲ享有シ各國国防ノ安全感ヲ害スルコトナク不脅威不侵略ノ原則ヲ確立セントスルモノニシテ大海軍國間ニ於ケル軍縮ノ方法トシテ各國ノ保有シ得ベキ兵力量ノ共通最大限度ヲ規定スルヲ根本義トス

而シテ之ガ協定ニ当リテハ軍縮ノ精神ヲ發揮スル為右限度ヲ小ナラシメ且ツ攻撃的兵力ハ之ヲ極力縮限シ防禦的兵力ハ之ヲ整備シ以テ各國ヲシテ攻ムルニ難ク守ルニ不安ナカラシムルヲ基礎トセザルベカラズ之ガ為高度軍備國ハ他ニ比シ一層大ナル犠牲ヲ提供スベキハ勿論ナリ

七、前記根本方針ノ論議ニ関連シ必要ニ応ジ右根本方針ヲ前提トシテ左記含ミノ上具体的問題ニ関スル交渉ヲ開始セラルベシ

(イ) 主力艦ハ會議対策トシテ之ガ全廢ヲ主張スルコトヲ得
(ロ) 航空母艦ハ之ガ全廢ヲ主張ス

(ハ) 主力艦、航空母艦存置ノ場合ニ於テハ右兩艦種及甲級巡洋艦ハ乙級巡洋艦、駆逐艦及潜水艦ト共ニ一括シテ総噸數ヲ以テ制限ス

此ノ場合主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦ニ付キテハ極力之ヲ縮減シ艦種毎ニ各國ニ對シ割當量ヲ定メ帝國及米國ニ對シ右割當ハ同量トス
主力艦、航空母艦ヲ全廢スル場合亦之ニ準ズ

(ニ) 帝國政府ハ成ル可ク早キ時機ニ於テ新協定兵力ニ到達スルコトヲ要求スルモノナルモ要スレバ右協定兵力ノ内容ニ応ジ一定期間内ニ逐次兵力ニ到達スルヲ目途トシ協定スルコトヲ考慮シ得

八、予備交渉ノ情況如何ニ依リテハ中途ニテ交渉ヲ打切り本會議ニ持越シ又ハ本會議不開催ニ導カントスル事態ニ立到ルヤモ知レザル処今次交渉終止ノ体様如何ハ爾後ノ國際情勢ニ影響スルコト甚大ナルモノアル

ベキガ故ニ此等ノ場合ニ於テ我方會議対策ノ大局上ニ不利ヲ招来セシメザル様特ニ警戒セラレベシ

九、仏伊兩國間ノ兵力均等問題ハ未ダ解決ヲ見ズシテ今日ニ至レル次第ニテ我方今次ノ主張ト関連シ帝國ノ右二国ニ対スル立場ハ極メテ機微ナルモノトナルベキニ付交渉ノ中心ヲ先ヅ英米兩國ニ置き我方主張ヲ現下我が国民ノ熾烈ナル要望トナリ居ル点ニ出ヅルモノナルコトヲ充分説明シ英米ヲシテ了解セシムルニ努メ又仏伊側ニ対シテハ状況ニ応ジ我方主張ノ主要目的ノ國ガ英米二国ニ在ル旨ヲ説明シ仏伊兩國間ノ關係ニ付テハ直接關係國ノ間ニ適當ナル妥結点ヲ見出サルルコトニ付何等ノ異議ヲ有セザル旨ヲ可然説明シ置カレ度シ

十、海軍軍備制限ニ関スル華府條約ハ今次海軍軍縮予備交渉ニ対スル帝國ノ主張ニ鑑ミ昭和十一年末限りヲ廢止スル帝國政府ノ方針ナル処我方ニ於テハ之ガ廢止ヲ為スモ海軍軍備縮少ニ関スル協定ヲ為サザルコトヲ欲スルニハ非ズシテ關係國間ニ公正妥當ナル新協定ヲ遂ゲ以テ世界平和ノ確立ニ貢獻セントスルモノナリ從テ今次予備交渉ニ於テ先ヅ以テ我方根本方針ヲ提示スルト共ニ右方針ニ照ラシ華府制限條約ハ之ヲ廢止スルノヤムナキニ到ルベキコトヲ關係國代表者ニ印象セシムルヲ適當ナリト認ム就テハ我方今次ノ主張ガ現下國民ノ熾烈ナル要望ニ基クモノニシテ帝國政府トシテハ早晚同條約廢止通告ヲ為スコトニ決定シ居ル次第ナルモ他方帝國ハ出來得ル限り友好的且效果的ニ予備交渉ヲ行ハムト欲シ廢止通告ハ之ヲ差控ヘ居ル実情ニシテ此ノ際關係國間ノ合意ニ依リ今年中ニ之ガ廢止通告ノ手續ヲナシ次テ各國協力シ新條約ノ成立ニ努ムルノ形式ヲ採ルニ於テハ輿論ノ緩和ニ資スルノ効果少カラザルベキコトヲ適宜關係國代表ニ説

明セラレ局面ヲ右ニ導ク様努力相成度シ

右ニ対シ關係國中特ニ米ノ如キハ相当難色ヲ示スモノト予想セラルルモ英國側一部ニ於テハ華府制限條約ノ存続ニ異論アルモノノ如ク他方廢止通告ノ後ニ年後ニハ締約國全部ニ関シ同條約ノ廢止ヲ見ルニ至ルベキモノナルガ故ニ寧ロ爾後ノ交渉ヲ友好的霧困氣裡ニ進展セシムルノ点ニ思ヒヲ致シ各國共同シテ昭和十一年末日迄ニ本條約ヲ廢止スルニ同意スル様勸説セラレ度シ

但シ右交渉ノ結果關係國ガ我方提議ヲ応諾セザル場合ハ其ノ諾否ノ態度ヲ明ニセザル場合ニハ帝國政府ハ本件ニ関シ帝國独自ノ見解ニ依リ本年末迄ニ廢止通告ヲ為スベキハ勿論ナリ

十一、本訓令ノ趣旨以外ニ巨ル事項及本訓令ノ趣旨ニ扨リ難キ事項ニ関シテハ隨時請訓セラレ度シ

第二節 日英會談

(一) 松平「サイモン」會談（日本案輪郭ノ説明）

曩之八月十四日在京英國大使館「ガスコイン」書記官ハ重光次官宛書翰ヲ以テ英國關係ハ十月十五日前ニハ倫敦ニ居合ハササルヘキニ付日本代表ハ同日以後來英セラレハ好都合ナル旨訓令ニ基キ申越セリ仍テ山本代表ハ右ニモ鑑ミ十月十六日倫敦ニ到着シタルカ同日米代表「デーヴィス」一行モ着英シ茲ニ日英米間予備交渉再開ノ準備整ヘリ

然ルニ右山本代表着英ニ先立チ十月八日「サイモン」外相ハ松平大使ニ対シ日本案ノ大体ノ輪郭ヲ承知シタ

キ旨述ヘタルヲ以テ松平大使ハ近來種々誤報伝ハリ居ルモ日本側ニ於テハ先ツ英米ト隔意ナキ意見ノ交換ヲ為シ新協定ノ成立ニ努力スル方針ナリ然レトモ若シ不幸ニシテ適當ノ時期ニ話合付カサル場合ニ於テハ華府海軍条約ノ廃止通告ヲ為スノ已ムヲ得サルニ至ルヘキコトアルニ付此点ハ予メ御承知置キアリタク又日本側ニ於テ「パリテイ」ヲ主張セストノ新聞報道モアリ誤解ヲ起シタルコトアルモ日本側主張ノ骨子ハ從來ノ比率主義ヲ廃止シ各国間ニ其保有兵力ニ関シ超ユヘカラサル共通最大限度ヲ設定シ且右限度ハ出来得ル限り之ヲ低クスルコト及攻撃の兵力ハ之ヲ全廃又ハ極力縮減シ防禦の兵力ハ之ヲ整備セントスルニアリ其詳細ニ付テハ後日ニ譲ルヘキモ要スルニ日本ハ英国トノ關係ヨリモ米國ノ太平洋ニ於ケル勢力ヲ考慮セサルヘカラスル地位ニアリ米國側ニ於テハ常ニ其海軍力ヲ太平、大西兩洋ニ分チテ使用スルコトヲ強調シ居ルモ日本トシテハ非常ノ場合米國全艦隊カ太平洋ニ集中セル場合ヲ考慮ニ入レサルヘカラス而シテ米國カ現在ノ兵力ヲ以テ日本ヲ攻撃スルコト不可能ナリト云フナラハ日本カ米國ト均等兵力ヲ有スレハトテ日本モ米國ヲ攻撃スルコト不可能ナル筈ナリ、加之日本國民カ差別的劣勢ニヨリ拘束セラルルコトニ不満ナルハ当然ニ付今回ノ交渉ニ於テハ此ノ点ヲ強調スル積リナル旨ヲ伝ヘ置キタリ

(二)第一回会谈(我根本方針説明)

斯クテ予備交渉ハ十月二十三日第一回会谈ヲ最初トシテ再開セラルルニ至レリ第一回会谈ニ於テハ先ツ松平大使ヨリ日本政府ハ慎重ナル研究ノ後今回ハ從來ト異リタル見地ヨリ作成セル提案ヲ為スコトニ決シタルカ帝國政府カ世界ノ平和ニ貢獻スルコトヲ念トセルコト國民負担ノ輕減ヲ計ル為實質的ニ海軍軍備ノ削減ヲ希望スルコト及帝國提案ハ攻撃の兵力ハ全廃又ハ極力之ヲ削減シ防禦の兵力ハ之ヲ整備セントスルヲ原則トスルモノナルコト、帝國政府ハ華府及倫敦条約ニヨリテ規定セラレタル比率ノ觀念ハ國民ノ自尊心ヲ傷クルノミナラス現在ノ比率ハ国防ノ安全感ヲ満足セシメサルモノナルコトヲ言明シ、倫敦會議ノ最後ニ於テ若槻男カ声明セル如ク來ル可キ軍縮會議ニ於テハ從來ノ約束ニ何等拘束セラレスシテ臨ムヘキコトハ既ニ當時ニ於テ予見セラレヨリ從テ帝國政府ハ今回華府及倫敦条約ニ代ルヘキ關係國相互ニ満足ナル新協定ヲ締結セント欲シテ新ナル提案ヲ為シタルモノナルコトヲ説明シ次テ山本代表ヨリ國際平和ノ確立維持ノ為ニハ戰爭ノ脅威ヲ排除スルヲ急務トスヘク帝國政府ノ今回ノ提案ハ右戰爭ノ脅威除去ノ為ニ考案サレタルモノナルコトヲ前置キシ國家安全ノ為必要ナル限度ノ軍備ヲ保有スヘキ權利ハ各國ノ齊シク享有スヘキ根本原則ニシテ軍備ノ協定ハ此根本原則ヲ尊重シテ各國国防ノ安全感ヲ害スルコトナク不脅威不侵略ノ主義ノ下ニ為サルヲ要ス、而シテ之カ實現ノ為ニハ先ツ各國ノ保有シ得ヘキ兵力量ノ共通最大限度ヲ定メ右限度内ニ於テ各國国防ニ必要トスル軍備ヲ整備シ得ル様協定スルヲ適當トスヘク且右限度ハ出来得ル限り之ヲ低クシ攻撃の兵力ハ極力之ヲ縮減シ防禦の兵力ハ之ヲ整備シ以テ各國ヲシテ攻ムルニ難ク守ルニ不安ナカラシメンコトヲ要スル旨開陳シ其具体案ニ付テハ今後各國ト協調シテ公正妥當ナル軍備案ニ到達センコトヲ希望シタル旨述ヘタルニ「マクドナルド」首相ヨリ(一)共通最大限度ノ適用ハ總噸數ニヨルモノナリヤ或ハ艦種別ニヨルモノナリヤ(二)各國ハ各々其國情ヲ異ニシ国防ノ見地ヨリセハ各々其「ヴァルネラビリティ」ニ相違アル処右相違ニ応シ兵力量ニ多少ノ差異ヲ認ムルモノナリヤニ関シ質問アリ山本代表ヨリ(一)共通最大限度ハ總噸數ニヨルモノナル

モ攻撃的艦種ハ極力制限スヘキモノナリトノ意味ヲ含ムモノナリ(二)最大限ハ一定ナルヲ要スルモ「ヴァルネラビリティ」ノ多キ国ノ必要トスル最少兵力ヲ最大限度トシ「ヴァルネラビリティ」ノ少キ国ハ夫レ以下ニ止マルコトヲ得ヘシ最大限ヲ定ムトスルモ各国ハ敢テ右限度迄建造スルト謂フ意味ニアラスト答ヘタルカ其ノ際山本代表ハ日英間ニ事情ノ差異アルハ之ヲ諒トスルモ之カ為子メ一定ノ兵力ノ差等ヲ認め難シ現ニ英米間ニ於テハ「ヴァルネラビリティ」ニ差異アルニ拘ラス英國ハ米國ニ対シ均等ヲ与ヘタルニ非スヤ、又日米間ニ付テ見レハ日米間ニハ「ヴァルネラビリティ」ニ差異ナシト認ムル旨言明セリ

(三)第二回会谈(英側提出ノ質問事項)

翌十月二十四日英國側ヨリ我方ニ対シ

(一)各国カ共通最大限迄建艦スルノ自由ト「各国国防安全感確保」ノ原則トハ如何ニシテ調和セラルルヤ

(二)攻撃的及防禦的武器ノ内容

(三)日本案ニ関スル説明的細目案ノ有無

(四)現行艦種存続ノ場合質的制限ニ付日英ノ採ルヘキ大綱

(五)日英ノ各艦種ニ対スル所要総噸數ノ大略

ニ付説明ヲ求メタキ旨申越セルヲ以テ十月二十六日第二回会谈ヲ行ヒタルカ前記(一)ニ関シ「サイモン」ヨリ海軍力ハ相對的ノモノナルニ拘ラス日本案ニヨレハ共通最大限兵力ヲ必要トセサル国ハ右限度迄自由ニ建造シ得ルニ拘ラス之ヲ必要トスル国ハ右限度ニ拘束セラレ前者ノミ伸縮性ヲ有スル不都合ヲ生スヘシト陳ヘ

「マクドナルド」モ右ハ単ニ二国間ニ生スルノミナラス一切ノ国トノ關係ニ於テ生スヘキヲ以テ重大問題ナリト附加セルニ対シ松平大使ヨリ現在ノ各国軍備ヲ標準トスル限リ日本案ニテハ英米ノ如キ大海軍國ハ大ナル犠牲ヲ払フコトナリ日本モ小ナル海軍國ニ比スレハ大ナル犠牲ヲ払フコトナルモ今回ノ日本提案ハ華府條約ニ定ムル比率ヲ離レテ自由ニ討議ヲ行ヒ度キ次第ニシテ若シ日本ヲ三トシ英國ヲ五トストノ仮定ノ下ニ於テハ「サイモン」ノ云ハルルカ如ク日本ハ五ノ国ヨリモ伸縮性ヲ有スル訳ナルモ其仮定ヨリ離レテ考ヘラレンコトヲ望ム日本側ニ於テ問題トスル処ハ主トシテ米國ナルカ日米ヲ比較セハ其資源ニ於テ、領土ノ広狭ニ於テ又其工業能力ニ於テ日本ハ米國ヨリモ大ナル「ヴァルネラビリティ」ヲ有スヘク從テ仮ニ日本カ米國ト同率ヲ得ルトスルモ米國ニ対シ何等ノ脅威トナラサルヘシト説明シ山本代表ヨリ攻撃的武器ヲ存スレハコソ一國ノ海軍カ他國ノ脅威トナルコトアリ得ヘキモ之ヲ極力削減セハ結局他ヨリ侵略サルル可能性少ク国防ノ「ヴァルネラビリティ」ハ局限セラルヘキ旨ヲ開陳シ(二)ニ関シテハ山本代表ヨリ航空母艦、主力艦、甲級巡洋艦ハ此ノ順序ニテ攻撃的ナリ乙級巡洋艦、驅逐艦、潜水艦ハ防禦的ナリ之ヲ日本案ニ適用スレハ前三者ハ出来得レハ之ヲ全廢シタキ考ナルモ全廢出来サル場合ニハ艦種別ニテ制限シ後三者ハ総噸數ニテ最大限ヲ定メ其限度内ニ於テハ自由ニ建造シ得ルコトトシ更ニ兩者ヲ總括シテ共通最大限ヲ定メ度キ意向ナリ航空母艦ハ最モ攻撃的ナルヲ以テ全廢シ度シ主力艦及甲級巡洋艦ハ他國ノ事情ヲモ考慮ニ入レ若シ全廢出来サル場合ニハ將來之ヲ全廢スルコトヲ目的トシテ大縮減ヲ行ヒ度旨述ヘタルニ「モンセル」ハ英國トシテハ地中海、「バルチック」海等ニ於テ陸上ヨリノ空中攻撃ニ對抗スルモノハ航空母艦ナルヲ以テ之ヲ廢止スルコトハ困難

ナリ主力艦ニ付テ云へハ英国ハ主力艦ヲ全然防禦的ト認メ居レリ、若シ主力艦ヲ廃止セハ巡洋艦カ最大ノ軍艦トナリ実質上主力艦トナルヘシ又英国カ百隻ノ巡洋艦ヲ有シ他ノ一国モ百隻ノ巡洋艦ヲ有スト仮定センニ他国ハ英国ノ領海内ニ此百隻ノ巡洋艦ヲ集中シ得ルニ拘ラス英国ハ百隻中七十五隻ハ世界各地ニ散在ヲ余儀ナクセラレ僅ニ二十五隻ヲ以テ百隻ニ對抗セサル可カラサル結果トナルヘシ主力艦隊ニヨリテノミ英国ハ右巡洋艦ニ對抗シ得ルモノニシテ英国ハ主力艦ノ廃止ニハ全然賛同シ難シ甲級巡洋艦ノ廃止ニ付テハ日本側ト同意見ナリ、日本側ノ謂ハレタル防禦的兵力に關シテハ乙級巡洋艦及駆逐艦ハ防禦的トスルコトニ異議ナキモ潜水艦ハ絶対ニ防禦的ト認メ難シト述ベ「マクドナルド」首相モ英吉利海峡ノ如キ海峡ヲ有スル英国トシテハ潜水艦ハ防禦的ト認メ難キ旨繰返シ「モンセル」ハ更ニ進シテ英国ハ常ニ潜水艦ノ廃止ヲ主張シタリシカ各国ノ賛同ヲ得サリシニヨリ艦型ヲ極度ニ縮少シテ行動範圍ヲ小ナラシメ以テ攻撃的性能ヲ極減センコトヲ主張シ来リタル次第ナリト述ヘタルヲ以テ山本代表ハ潜水艦ハ居住不自由ニシテ乗員ノ困苦甚シク遠距離ニ於テ攻撃的ニ使用スルコトノ困難ヲ指摘シ且日本トシテハ寧ロ潜水艦ノ艦型拡大ヲ希望スル位ナル旨答ヘ(四)及(五)ニ付テハ山本代表ヨリ之等ノ問題ハ日本提案ノ具体内容ヲ明確ナラシムル為提出サレタルモノト思考スル処之等ノ問題ハ共通最大限度カ設定サレタル後ニアラサレハ決定シ難カルヘク又質的制限ノ問題ハ或艦種ノ廃止又ハ縮減カ決定セラルル迄ハ討議出来サルヘキ旨ヲ開陳セリ

(四)第一回日英専門家会合

右第二回日英会談中「マクドナルド」首相ハ討議促進ノ為日英専門家会合ヲ行フヘキコトヲ提議シタル結果同日(十月二十六日)午后第一回日英専門家会合行ハレ英側ヨリ各艦種ニ關スル質的制限案トシテ左記ヲ提案セリ

(イ)主力艦ニ付テハ二万五千噸、十二吋砲

(ロ)航空母艦ニ付テハ二万二千噸五・一吋砲(但シ六吋トスルコトニ必シモ反対セス、八吋ニハ反対)

(ハ)巡洋艦ニ付テハ

(1)甲級巡洋艦ハ之カ廃止ヲ希望スルモ現実問題トシテハ之カ不建造

(2)乙級巡洋艦モ大型ノモノハ隻数ヲ制限ス

(ニ)駆逐艦ニ付テハ現行規定通り即駆逐艦千五百噸嚮導駆逐艦(五・一吋砲)千八百五十噸

(ホ)潜水艦ニ付テハ、之ヲ保有スル場合ノ艦型ハ現行ノ通り

之ニ対シ山本代表ヨリ日本側ニ於テハ主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦ハ攻撃的武器トシテ之ヲ全廢シ度キ意向ナルモノヲ全廢シ得サル場合ニハ徹底的ニ縮減スルコトト致度ク量ノ問題ヲ無視シテ質ノ問題ノミヲ討議シ得ス全般的協定不成立ノ場合質ノミノ制限ニ止ムルコトハ同意シ得サルコトヲ前置キシ前述ノ英国ノ質的制限案ニ付テハ

(イ)主力艦ハ四吋砲ヲ搭載シ得ル程度迄縮少シ得ヘク噸數ニ於テハ二万八千噸乃至三万噸位ナリ

(ロ)航空母艦ハ二万噸

(ハ)巡洋艦ニ付テハ(1)航空母艦ヲ存置スル限り八吋砲艦ヲ必要トスヘシ(2)大型六吋砲艦ハ八千噸以下小型六吋

砲艦ハ五千噸位

(ニ) 駆逐艦ニ付テハ日本ハ現有ノ駆逐艦別トシ将来ハ千五百噸ニテ可ナリヲ主張スル旨説明セリ

次テ量的問題ニ入り

(イ) 主力艦ニ関シ英國ハ艦型ヲ縮少シ隻數ハ十五隻ヲ必要トスルコト、十五隻ハ太平洋ニ於テハ日本海軍ト均勢トナルヘキコトヲ述ヘタルニ對シ山本代表ヨリ日本ハ主力艦ヲ全廢セント迄考ヘ居ルモノニシテ英國ノ十五隻保有ニハ到底同意シ難キコトヲ述ヘ

(ロ) 航空母艦ニ付テハ英國ハ十一萬噸(二萬二千噸五隻)ヲ提議セルモ山本代表ハ日本ハ航空母艦ヲ全廢セントスルモノニシテ万一保有セラルル場合ハ極力之ヲ縮減スル必要アリト述ヘ

(ハ) 巡洋艦ニ関シテハ英國ハ八吋砲艦十五隻大型六吋砲艦十隻、小型六吋砲艦四十五隻合計七十隻ヲ絶対的ニ必要トスル旨述ヘ

(ニ) 駆逐艦ニ付英國ハ駆逐艦ノ保有量ハ潜水艦ノ量ヲ基礎トシテ定ムヘキモノナリトシ潜水艦四萬噸ノ場合ニハ駆逐艦十萬噸、潜水艦四萬噸以上ナレハ駆逐艦ハ十五萬噸以上ノ保有ヲ主張シタルニ對シ山本代表ハ日本トシテハ航空母艦全廢トナレハ潜水艦ノ保有量ハ現有量ノ儘ニテ可ナルモ然ラサル場合ニハ最低十二萬噸ヲ必要トスル旨主張セリ

以上日英代表及専門家會談ノ結果帝國主張ハ一応英國側ニ説明ヲ了セリ

第三節 日米會談

(一) 第一回會談(我根本方針説明)

米國側ニ對シテハ十月二十四日第一回代表會談ヲ行ヒ我兩代表ヨリ英國ニ對シテ為シタルト同様我根本方針ニ付説明シタル処

「デーヴィス」ヨリ平等ノ權利ニ付質問アリ松平代表ヨリ「平等ノ基礎ニ立チ協定スルノ意ニシテ必スシモ最大限迄造船スルノ意ニ非ス国力ニ応シ整備セントスルモノナルモ比率ニ拘束セラルルヲ以テ「プレステイジ」上不満トスル」旨ヲ説明セルカ更ニ「デーヴィス」ハ攻撃的防禦ノ區別ニ関シ右區別論ハ議論ヲ混乱セシメ協定ヲ不能ニ了ラシムヘシト述ヘ又日本案ハ從來ノ比率ノ觀念ヲ離レ新ナル見地ヨリ提案セラレタリトノコトナルカ從來ノ條約ハ政治問題其他一切ノ問題ヲ考慮ニ入レテ検討セル後締結セラレタルモノナルヲ以テ日本側カ全然新ナル見地ヨリ提案ヲ為サルルニ於テハ更ニ政治問題其他一切ノ問題ノ再検討ヲ要スルコトトナルヘク問題ノ解決ハ極メテ困難トナルヘシトテ難色ヲ示シ、共通最大限度設定ニ関スル日本側ノ提案ニ関シテハ各國ノ海軍力必要程度及其ノ安全感ナルモノハ比較的ノ問題ニシテ防禦ノ見地ヨリスルモ安全ノ見地ヨリスルモ米國ハ日本ヨリモ大ナル海軍力ヲ必要トスルニ拘ラス双方トモ共通最大限度迄建造シ得ルコトトナスハ不合理ナリ又既存條約ハ三國ニ相對的安全ヲ確保セルモノナルニ日本ハ何故ニ今日之ヲ不安ト感スルニ至リタルヤト尋ネ又比率ノ語ニ代フルニ「リライティヴ、ストレンジス」ニヨル安全ノ平等ト云フハ如

何ト述ヘタルヲ以テ松平山本両代表ヨリ米國ハ豊富ナル資源ヲ有シ、艦船ノ建造能力モ大ニシテ「バルネラ
ピリテイ」ノ点ヨリ見レハ日本ヨリモ遙ニ優位ニアルコト、既存条約成立後艦船兵器ノ進歩カ艦船ノ行動半
徑ヲ著シク大ナラシメタルノミナラス過去三年間極東ニ於テハ大ナル騷擾アリ国民感情モ大ニ硬化シタル
コトヲ説明シ又「リラティブ、ストレンジス」ニヨリ安全ノ平等ト云フモ比率ト同意義ナリト反駁セリ

(二) 松平「デーヴィス」會談

其後十月二十七日松平大使「デーヴィス」内談ノ際華府条約廢止問題ニ付話合行ハレタル処「デーヴィス」
ハ松平大使ニ対シ華府条約廢止ニ関スル日本政府ノ意向ハ承知シ居ルモ同条約ハ有ラユル問題ヲ考慮シタル
上締結セラレタルモノナルニ付之ヲ基礎トシテ日本政府ノ意向ヲ參酌シ之ヲ改訂スルコトハ然ルヘキモ何等
ノ基礎ナクシテ新ニ協定ヲ作ラントスルコトハ凡テノ問題ヲ繰返スコトトナリ望マシカラスト思考スル旨述
ヘタルヲ以テ松平大使ハ此ノ点ニ関シテハ帝國政府ハ全ク異リタル見解ヲ有シ同条約ノ廢止通告ハ如何ナル
場合ニ於テモ年内ニナスヘキコトニ確定シ居レリ實ハ今回交渉開始ノ劈頭ニ於テ廢止通告ヲナスヘシトノ議
論モアリタルモ我政府ニ於テハ斯クセハ會商ノ空氣ヲ悪化センコトヲ慮リ出来得レハ關係國協同シテ廢止ノ
通告ヲナシ然ル上引続キ友好的霧囲氣ノ内ニ交渉ヲ進メ各国ニ満足ヲ与フル新協定ヲ作ラントスル意向ヲ有
シ我々モ此ノ方針ニテ訓令ヲ受ケ居ルモ前回ヨリノ貴代表ノ御話ニ徴シ米國側ニ於テハ共同廢止通告ニ賛成
スヘシトモ思ハレサルカ何レニセヨ我方ニ於テハ年内ニ右通告ヲ行フヘキニ付予メ御承知アリ度キ旨述ヘタ
ルニ「デーヴィス」ハ米側ハ華府条約ノ存続ヲ希望シ居リ英ハ倫敦条約ハ好ミ居ラサルモ華府条約ニ付米國

以上ニ其ノ存続ヲ希望シ居ル様子ナリ華府条約ノ廢止ハ本年末後ニ於テモ何時ニテモ為シ得ル次第ニ付二三
箇月ニテモ通告ヲ延期セラルルニ於テハ其ノ間日本ノ希望ニ付都合好ク進展スルニアラスヤトモ思ハルト述
ヘタルニ付松平大使ハ年内ニ廢止通告ヲ為スヘキコトハ日本政府ニ於テ既ニ國民ニ対シ「コミット」シ居
ル次第ニ付之ヲ延期スルコトハ到底不可能ナル故此ノ点誤解無キ様望ム旨及右通告ヲ為シタレハトテ同条約
ハ一九三六年末迄効力ヲ有シ居リ又日本政府ニ於テハ之カ為國交上ニ悪影響ヲ及ボササル様充分注意スヘク
友好的會商ハ勿論繼續ノ用意アル旨述ヘ置ケリ

(三) 第二回會談

一方日英間ニハ既ニ質的制限ニ関スル商議モ行ハレタルニ鑑ミ十月二十九日第二回會談ニ於テ「デーヴィス」
ヨリ日本ハ英國ニ対シ細目ノ説明ヲ与ヘラレタル由ナル処米國ニ対シテモ右ト同様ノ説明ヲ与ヘラルルヲ得
ハ日本側ノ根本原則ノ趣旨モ一層明カトナリ又其ノ適用ノ具体的内容ヲモ知り得ルニ便ナルヘシト述ヘタル
ヲ以テ松平山本両代表ヨリ日米専門家會合ニハ異存ナキモ質的問題ハ我方根本方針タル共通最大限設定ノ原
則ニ密接ノ關係アリ之ヲ離レテハ考ヘラレサル次第ナリ英國ニ対シテハ我方根本方針カ容レラルルコトヲ条
件トシテ先方ノ開示セル具体的問題ニ対シ我方ノ所見ヲ説明セル次第ナルコトヲ告ケ尚松平代表ヨリ米國側
ヨリ具体的提案アラハ之ニ対シ我方所見ヲ述フルコトハ差支ナキ旨答ヘタルニ「デーヴィス」ハ米國側今回
商議ノ目的ハ倫敦条約ヲ更改シ華府条約ヲ繼續スルコト及右両条約ノ範圍内ニ於テニ割方ノ縮減ヲ行フコト
ニ在リ此ノ建前ノ下ニ技術的ニ考ヘ如何ニ具体案ヲ按排スヘキカヲ考ヘ居ル次第ニシテ之ヲ離レテハ質的問

題ニ付具体案ヲ有セスト云ヘルニ付松平代表ヨリ此ノ意味ニ於テハ日本案ノ質的説明モ無意義ナルヘシト述ヘ山本代表ヨリモ英国トノ専門家会合ニテハ英案ニ基キテ技術的意見交換ヲ為シタルモノナリ又質的問題ハ前述ノ如ク我根本方針ト不離ナル關係ニ在リ而モ右方針ハ戰爭ヲ不可能ナラシムルヲ基礎トシ居リ航空母艦潜水艦等ニ關係スルカ如キ技術問題モ戰爭ヲ無カラシメントスルコトニ出發シ居レルカ故ニ根本方針ヲ離レタル質的商議ハ無意義ナリト言明シタルニ對シ米側ハ現行條約カ各国ニ安全感ヲ与ヘ居ル点ヲ重ネテ強調セルニ依リ我方ヨリ比率ノ觀念カ国民ニ不平等ノ感ヲ与ヘ将来關係国間ニ不安ノ原因トナルヲ懼レ華府條約廢止ヲ決意シ居ル次第ヲ説明シタルカ此ノ点ニ關シテハ日米間意見ノ對立依然タルモノアリタリ

(四) 第三回會談

越エテ十月三十一日第三回會談ニ於テ米側ヨリ日本新提案ノ根拠ハ

(一) 技術ノ進歩ニ依ル安全感ノ著大ナル變化

(二) 國家ノ「プレステイジ」

ニ在リト認メラルル処(一)ハ米専門家研究ノ結果納得スヘキ理由ナク(二)ニ付テハ海軍力ノ増加ガ「プレステイジ」ヲ増ストハ考ヘラレス現在條約ハ防備制限規定ヲモ含ミテ現狀ニテ考ヘ得ヘキ最良ノ方法ナリト信ス然ルニ今日本カ此ノ現存條約ヲ捨テ自由ニ行動シ度シト云ハルルハ誠ニ不幸ナリ三國カ十數年間各利得スル所アリタルモノヲ今日廢止スルコトニヨリ何ノ利益アリヤ又劣等比率ハ「プレステイジ」ヲ害スト云ハルルモ均等海軍必スシモ安全ノ均等ヲ招來セス日本ハ現狀ニテ安全ノ均等ヲ得居レリト思考スル旨述ヘタルニ付

山本代表ヨリ(一)ノ点ニ關シ華盛頓條約締結以來十數年ヲ經過セルカ其ノ間艦船ニ著シキ進歩アリシハ海軍モ同様ニシテ特ニ米海軍ノ新艦力面目ヲ新ニセルハ周知ノ事實ナリ新艦船ノ進歩中最著シキハ其ノ航続力ノ増加速力ノ増大ナリ其ノ結果渡洋作戰カ極メテ容易トナレリ又兵器ノ進歩ニ付テ言ヘハ二箇艦隊對戰ノ場合ニ於テ兵器ノ進歩ハ攻撃艦隊ヲ利スル所多ク守勢艦隊ヲ益々不利ナラシム航空機ノ異常ナル發達ハ更ニ攻撃艦隊ノ戰鬥力ヲ増加セリ殊ニ航空機ノ發達ハ日本ノ如キ細狹長ナル國ニ取リテハ隨時ニ有効迅速ナル空中攻撃ヲ受ケ國民ノ不安絶大トナリ之カ防禦ノ為多數ノ艦船ヲ要スルニ至リ華盛頓條約當時ニ比シ劣勢防禦艦隊ノ困難著シク増大セリ華府條約ハ現有勢力ヲ基礎トシテ比率ヲ定メタルモノニシテ其ノ當時ニ於テスラ各國ノ安全感ヲ平等ニ満足セシメタルモノトハ認ムル能ハス其ノ証拠ニハ同條約ニ對スル日本海軍部内ノ不滿著シク結局比率ノ不滿ヲ補フ為補助艦艇ヲ整備スルニ努力シタルカ米國側又之ニ對抗シタル為倫敦條約トナリ同條約ニ於テモ又日本ハ満足ナル結果ヲ得ラレサリシ為制限外艦艇及航空機ノ増設ヲ計ルノ余儀ナキ立場トナレリ右ノ事態ニ鑑ミ右二條約ヲ終了セシメ全然新ナル立場ヨリ出發センコトヲ企圖シ先ツ攻撃ヲ行ハサルコト攻撃セラレタル時防禦シ得ル丈ノ兵力ヲ有スヘキコトニ思フ致シ今回ノ提案トナレリ前回米國側ニ於テハ共通最大限ヲ定ムトセハ米ハ「アラスカ」、巴奈馬比島ノ防衛ニ不安ヲ感スト説カレタルモ米ノ五ヲ以テ日本ノ三ニ對シ日本ニ何等ノ脅威ナシトノ米國側ノ說ニ依レハ日本カ均等ヲ保有スルモ何等米ニ對シ脅威ヲ与ヘサルヘキ筈ナリト思考ス況ンヤ日本案ハ攻撃的武器ヲ廢シ又ハ極減シ防禦的兵器ヲ整備スルニ在ルヲ以テ他國ニ脅威ヲ与ヘサルヘキ理ナリ

若シ日本カ他国ニ対シ攻撃的ノ戦ヲ為サンコトヲ意図セハ今日ノ日本案ハ日本ニ都合悪シキ次第二シテ攻撃ノ為ニハ航空母艦ノ廃止ハ不便ナリ相手国カ潜水艦ヲ保有スルハ不都合ナリ而モ本提案ヲ為セルヲ見レハ日本ニ攻撃ノ意図ナキヲ知ルヘシト述ヘタリ

(二)ニ付テハ松平大使ヨリ日英米三国カ協同シテ世界平和ノ維持ニ当ルヘキコトハ日本トシテモ大イニ賛成スル処ナルモ右ハ三国カ平等ノ基礎ニ立チテノ協力ナルヲ要ス、幸ニシテ過去十数年間ニ於テハ日米ノ間ニ何等困難ナル事態ノ発生ヲ見サリシモ将来トモ比率ノ觀念ヲ存スルニ於テハ長年ニ亘ル将来ノ兩國關係ニ対シ面白カラサル影響ヲ与フルコトナキヤヲ慮ル日本ノ欲スル処ハ平等ノ基礎ノ上ニ立ツ協力ニシテ斯ノ如キ協力ニヨリ始メテ世界ノ平和ヲ確保シ得ヘシト信スル次第ヲ告ケタルカ米側ハ依然承服セス或ハ製艦競争勃発ノ可能性ヲ説キ或ハ国際平和機構ノ破壊ヲ恐ルル等ノ所論ヲ屢屢繰返セリ

第四節 英米会談

英米代表ノ正式会談ハ十月二十九日午后首相官邸ニ於テ第一回会談ヲ行ヒ海軍問題ノ現状ニ付意見交換行ハレタル旨発表セラレタルカ右ニ先立チ十月二十五日「デーヴィス」ハ「マクドナルド」ヲ往訪シ会談シタルカ其ノ際ニハ兩國ハ全体トシテ既存条約ニ相互利益ヲ認メ且世界不安ノ増大セル今日三国カ条約ヲ有スルコトカ安定ヲ与フルヲ信シ此ノ大道ヲ基礎トシテ相對的ニ軍備ヲ縮減シ時代ニ応スル修正ヲ然ルヘシト認メ米側ヨリ其ノ修正ヲ申入レタル趣ナリ

其ノ後十一月六日「サイモン」ハ「デーヴィス」ト会見シ翌七日日本側ニ提示ニ先立チ後出英國示唆案ヲ内示シタルカ

越エテ十一月十三日日英米専門家会合ヲ經テ十四日第二回代表会談ヲ行ヒタルカ英側カ依然小艦多数ヲ主張シタルニ対シ米側ハ依然大艦巨砲ヲ必要トスル旨ヲ主張シタルカ英國カ多数ノ小艦ヲ必要トスル特殊ノ事情ニアルコトハ米側ニ於テモ之ヲ諒解シ英國側カ新ニ多数ノ小艦ヲ獲得スル場合ニハ米側ニ対シテモ他ノ艦種ニ於テ多数ヲ認メテ埋合セヲ為スコトヲ主張シ質的制限カ建艦競争防止上最重要点ナリトノ英側主張ハ大体米側モ之ヲ諒解セル趣ナリ

第三章 英國ノ示唆案提示後ノ交渉

第一節 「サイモン」ノ政治的解決私案並ニ建艦宣言ニ関スル英國示唆案

(一)十月三十日松平「サイモン」会談

十月三十日松平大使ハ「サイモン」ト会見本年中華府条約廃止通告方ニ関スル我方決意ヲ更メテ開陳シ其同廃止通告方ニ関スル英國ノ意向ヲ訊ネタル処「サイモン」ハ英國トシテハ華府条約存続ヲ希望スル旨答ヘ防備制限条項ハ日本側ニ有利ナラスヤト反問シ尚米國大統領ニ於テハ華府条約廃止ノ晩ニハ大建艦ノ意アルヤニテ英國トシテハ対米建艦競争ヲ憂慮シ居ル旨述ヘタルヲ以テ松平大使ヨリ防備制限ハ他國側ニモ有利ニ